

ヤマユリ	<i>Lilium auratum</i> Lindl.	絶滅危惧 I 類
		ユリ科
選定理由	ごく僅かな場所で、少数の個体があるのみ。	写真(高橋弘)
形態の特徴	高さ100-150cm。葉は互生し、披針形、長さ10-15cm、幅1.5-3cm。花は頂部の葉腋に3-5個つき、基部から大きく開く。花被片は長さ12-14cm、幅3-4.5cm、先が反曲し、白色、内面には中肋に沿ってやや広い黄色の帯、全面に赤紫の斑点がある。	
生態的特徴	林縁、時に崖地に生える。花期は7-8月。	
分布状況	日本に固有で、本州の東北地方から近畿地方まで分布する。岐阜県では県南の東部と中部の、標高500m以下にわずかに見られる。	
減少要因	開発による生育地の消滅と、栽培のための採取による。	
保全対策	生育地の保全と採取の禁止。	
特記事項	花がきれい目立つため、採取されやすい。	
参考文献		
		※生育地保全のため、広範囲の分布図を表示しています。

文責: 高橋弘